

公開講演会：在宅医療の実際と患者家族の関わり方

—訪問診療による家庭の「医療化」を患者家族はどう乗り越えているか—

事業のポイント

- 在宅医療先進地(岐阜・愛知)のワザと感覚を、在宅医療後進地(徳島)へ伝える。
- 在宅医療において「生活の論理の尊重」が重要であることを、「家庭医療学」と「社会学」のコラボレーションのもとで解き明かしつつ、その観点を「明日の診療に活かす」講演会の実施。

事業代表者・連絡先

榎田 美雄 (大学院ソシオ・アーツ・アンド・サイエンス研究部・准教授)

770-8502 徳島市南常三島町1-1

tel・fax: 088-656-9512 e-mail: kashida@ias.tokushima-u.ac.jp

<http://web.ias.tokushima-u.ac.jp/social/>

胃瘻栄養の療養者の血圧を測る

1. 事業の目的

本事業の目的は、医師と社会学者のコラボレーションによって、徳島に在宅医療を考える新しい方向性を根付かせることである。

2. 事業の取り組み状況

しばしば生活破壊的になりがちな「家庭の医療化」を論じて、「生活の論理の尊重」というキーワードに至るストーリーを、患者家族をゲストに、説得的に講演した。

まず、若林英樹氏(岐阜大学医学部)に、家庭医療学の立場から、在宅医療における生活の論理の重要性を語ってもらい、聴衆に「生活の論理」という発想になじんでもらった。ついで、在宅医療のビデオ分析(写真1: 胃瘻栄養の療養者

の血圧を測る療養者家族)を実践している榎田(徳島大学・社会学)が洗練されたプレゼン資料に基づいて、「医療に生活を動員する」医療中心的立場の批判をおこなった。

3. 事業実施による成果と今後の展開

多数の医療関係者の来場があり、徳島においても、「生活の論理の尊重」という観点から、「在宅診療」を考える姿勢が広まるきっかけになった。中部地区と徳島での「在宅医療」を比較するジョイント研究も企画されることになった。